



夢・きらめき 豊中っ子

花に魅せられて

白川 滯那さん

小学4年生の時、何気なく園芸委員になり、世話をした花が日に日に育っていくのを見て、花を好きになった白川滯那さん(桜塚高校定時制、17歳、永楽荘)。

フラワーアレンジメントに興味を持ったのは、近所で草むしりをしていたフラワーアレンジメントの講師をしている長谷川栄作先生に話し掛けたことがきっかけ。花の保存方法やアレンジを教わり、花で人を喜ばせることができる。そこらに魅力を感じました。それからは、生け花の展示会に行ったり、教室で教わったりと、どんどん花の世界にのめり込んでいきました。

昨年4月、長谷川先生からコンテストへの参加を勧められ、今まで学んだことを試したいと思い応募を決意。まず、作品のイメージをデッサン画に描き起こすことから始めました。発想を生み出すために、図書館で図鑑を見て花の種類や特徴

を調べたり、公園で作品に使えそうな木の枝を探したりしました。長谷川先生から花の色使いやバランス、表現方法などのアドバイスをもらい、作品の土台となる木の枝の器を何度も組み直したり、スキの位置を変えたりしながら作品のイメージに近づけました。

そして昨年10月、第13回NFD全国高校生フラワーデザインコンテストのアレンジメント部門で最高位の金賞・文部科学大臣賞を受賞。「自然の中に咲いている美しい姿、またその中にある優雅さや渋みで魅する作品になるよう、色使いや形を工夫しました。受賞できてうれしい」と喜びを話す白川さん。

今後の目標は、コンテストでもう一度賞を取ること。そして、楽しい指導で印象に残るようなフラワーアレンジメントの講師になる夢も追いかけていきます。

風物詩

とよなか



ヒナギク

【キク科ヒナギク属／秋まき一年草、多年草】

うらかな陽光を存分に浴びて、赤や白、ピンク色のかれんな花を次々に咲かせます。ヨーロッパに広く自生し、古くギリシャやローマの神話にも描かれました。明治初年に渡来。そのかわいらしい姿から、ひな菊と名付けられました。花期が長いことから延命菊などとも呼ばれ、春の庭を明るく飾ります。

花の見頃は3月～5月。

市立豊中病院南側ロータリー(柴原町)、曽根交差点西側の道路沿い(曽根東町)などで見られます。



第13回NFD全国高校生フラワーデザインコンテスト
アレンジメント部門 金賞・文部科学大臣賞
受賞作品「野趣」



©日本フラワーデザイナー協会

作品のこだわり

赤色が映えるヒガンバナを美しく見せることで昔の日本の風景を連想させるような雰囲気。コンテストの時期に合わせ、木の枝とスキのしなりで秋の風情と満月の丸みを表現しました。



ゆめキラ
豊中っ子

11ch J:COM豊中・池田
豊中市広報番組

6月の土曜・日曜日の9時、15時からの15分。市ホームページからもご覧になれます。

白川滯那さんと6月号の「夢・きらめき 豊中っ子」に登場する人を紹介します。